

# 幹線交通の将来展望

## ～ 航空・鉄道・高速バスの競争と協調 ～

入場  
無料

**日 時** 2013年11月20日(水) 開場13:00 / 開会13:30 (17:00終了予定)

**会 場** 日本大学 経済学部 7号館 2階講堂  
(JR・都営地下鉄「水道橋」駅) ※駐車場はございません。

**主 催** 航空政策研究会

**後 援** 一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所

「2020年東京オリンピック」招致成功は日本中を駆け巡った。この「世紀の祭典」は、中長期的に見て日本社会の転換期になるかもしれない。交通さらに、航空輸送に目を転じると、オリンピックまでに大きな構造変化が訪れる可能性が高く、既に首都圏空港の重要性が強調され、さらなる容量拡大を求める声があがっている。この機会をどう捉えるか、我が国航空業界の重要性の浮沈を握るポイントとも考えられる。

一方、国内輸送では交通モード間の競争が激化している。2011年に開業した九州新幹線は、高速鉄道の競争力の強さを実証した。2015年開業予定の北陸新幹線や、将来の東北新幹線の北海道延伸は今後、航空との競争においてマーケットを浸食し、その影響範囲は計り知れない。さらに、リニア中央新幹線も現実味を帯びており、大阪延伸も徐々にわれわれの視界に入りつつある。道路交通では、今世紀初頭の規制緩和で登場した高速バスが、安全性の問題から若干の後退はあるものの、多様化する幹線交通需要の1つの有力な選択肢として生き残ることは確実であろう。

このような幹線交通の構造変化は、航空輸送の将来の不安定要素でもある。航空輸送はどのような戦略を持つべきなのか。答えは簡単ではない。しかし、高速輸送手段としての航空輸送の社会的重要性は疑うべくもなく、国民経済のインフラとしての役割を全うすることがその使命である。航空の場合、国内輸送と国際輸送の一体的輸送を提供できる。グローバル化した現代においては、幹線交通は一国内問題ではなく、国際輸送との関連が重要なのである。さらに、航空輸送のイノベーションはLCCであり、LCCの動向が基幹的交通の将来を左右する可能性もある。

近未来の幹線交通体系をどのように考えるか。本シンポジウムでは、航空輸送、空港運営という「航空業界」の視点だけでなく、成熟期を迎えた日本の経済社会における交通のあり方について我が国の幹線交通の将来展望をより広い視点から多角的に論じることとする。

プログラム 13:00 開場 / 13:30 開会

開会挨拶

13:40～ 第Ⅰ部 話題提供

『今後の幹線交通をめぐるいくつかの論点』 家田 仁 (東京大学大学院工学系研究科 教授)

14:40 休憩

15:00～ 第Ⅱ部 パネルディスカッション

『幹線交通の将来展望』

・コーディネーター

山内 弘隆 一橋大学大学院商学研究科 教授 / 航空政策研究会 理事・事務局長

・パネリスト

家田 仁 東京大学大学院工学系研究科 教授 後藤 靖子 国土交通省国土交通政策研究所 所長

黒野 匡彦 一般財団法人運輸政策研究機構 会長 坂本 裕寿 読売新聞グループ本社社長室 幹事

(五十音順・敬称略)

閉会挨拶

## 講演者 プロフィール

(パネリストとしても参加)



### 家田 仁 (いえた ひとし)

東京大学大学院工学系研究科 教授

1978年東京大学工学部土木工学科卒業。日本国有鉄道入社。1984年東京大学助手、1986年東京大学助教授を経て、1995年より現職。途中、西ドイツ航空宇宙研究所客員研究員(1988-89)、フィリピン大学客員教授(1993-94)、中国清華大学客員教授(2008)として長期派遣。アジア交通学会学術委員長(2005-11)、土木学会副会長、学会誌編集委員長などを歴任。国土交通省国土審議会、社会資本整備審議会、交通政策審議会委員を務める。専門は交通学・都市学・国土学。

## パネリスト プロフィール

(五十音順・敬称略)



### 黒野 匡彦 (くろの まさひこ)

一般財団法人運輸政策研究機構 会長

1964年東京大学法学部卒業。運輸省入省。鉄道局次長、大臣官房長、航空局長、運輸事務次官を歴任。2002年新東京国際空港公団総裁、2004年成田国際空港(株)代表取締役社長、2007年-2013年同社特別顧問。2011年より一般財団法人運輸政策研究機構会長、現在に至る。



### 後藤 靖子 (ごとう やすこ)

国土交通省国土交通政策研究所 所長

1980年東京大学法学部卒業。運輸省入省。運輸政策局観光部企画課企画調査室長、海上保安庁国際危機管理官、JNTOニューヨーク観光宣伝事務所長を歴任。2005年山形県副知事、2008年国土交通省北陸信越運輸局長、2010年国土交通省大臣官房審議官、2011年鉄道建設・運輸施設整備支援機構理事を経て、2013年7月より現職。



### 坂本 裕寿 (さかもと ひろひさ)

読売新聞グループ本社社長室 幹事

東京大学文学部卒。1988年読売新聞入社。1993年から経済部記者として財務省、日本銀行、農水省、経済企画庁などを担当。2000年ニューヨーク特派員。2003年社長室主任、2007年経済部次長、2010年論説委員。2013年6月より現職。国土交通省交通政策審議会委員。

## コーディネーター プロフィール



### 山内 弘隆 (やまうち ひろたか)

一橋大学大学院商学研究科 教授 (航空政策研究会 理事・事務局長)

慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。中京大学商学部講師、経済学部講師、一橋大学商学部助教授等を経て現職。2005年1月-2008年12月一橋大学大学院商学研究科長兼商学部長。交通政策審議会航空分会会長、鉄道部会副部会長等を歴任。現在、財務省財政制度等審議会委員、総務省情報通信審議会委員、資源エネルギー庁調達価格等算定委員会委員。著書『航空輸送』、『講座・公的規制と産業④交通』、『航空運賃の攻防』、『公共の経済・経営学』等。

## 【申込方法】(入場無料)

当会ホームページよりご登録ください。

**URL:<http://www.koseiken.jp/>**

※先着250名様で締め切らせていただきます。

航空政策研究会事務局 E-mail:[jimukyoku@koseiken.jp](mailto:jimukyoku@koseiken.jp)  
TEL:03(5418)7747